

第3回学校運営協議会 議事録

1. 日時：令和8年2月4日（金） 午後2時から午後3時30分

2. 場所：新棟1階 展開2教室

3. 出席者：

- 学校運営協議会委員（4名）

- 川口 雅夫

- 北村 翼

- 小川 寿之

- 中田 愛

- 教職員（2名）

- 准校長 南出 孝明

- 教 頭 宇井 友寿

- 首 席 播田 晃久

- 主 査 柏木 由紀子

- 書 記 佐々木 花菜

4. 欠席者：

- 学校運営協議会委員（2名）

- 田中 孝二

- 松本 礼代

5. 議題：

1. 開会の挨拶

2. 座長挨拶

3. 令和7年度 本校教育活動について協議

〔1〕令和7年度 教務部 総括

〔2〕令和7年度 生活指導部 今年度の報告

〔3〕令和7年度 進路指導部 今年度の取り組みについて

(4) 令和 7 年度 保健指導部 今年度の取り組みについて

(5) 令和 7 年度 後期 授業アンケートについて

(6) 令和 7 年度 いじめアンケート 最終報告

(7) 令和 7 年度 学校教育自己診断結果について

(8) 令和 7 年度 学校運営計画評価について

(9) 令和 8 年度 学校経営計画について

(10) その他

4. 閉会の挨拶

5. 事務連絡

6. 会議録：

○ 開会の挨拶（南出准校長）

はじめに 1 月 1 日付で着任した宇井教頭の紹介。

今年度最後の学校運営協議会ということで、今回は 1 年間のまとめと来年度に向けてどのように学校運営計画を立てたかについて話していく。

○ 座長挨拶（川口会長）

最近若者と関わる中でスマートフォンの話をよくする。人生を 80 年とした時にスマートフォンを触っている時間は約 6 年といわれている。これは実際に触っている時間だけでなく、返信が来ているか気になって何度も確認してしまう時間も多く含まれている。スマートフォンは疲労に直結しており、疲労を断つためには電源を切る必要がある。また、手元にスマートフォンを置いて会話をしていると親近感や共感力が低くなるというデータもある。スマートフォンは生きていくうえで必要不可欠なものであるが、付き合い方を考えていく必要がある。

○ 令和 7 年度 本校教育活動について協議（川口会長）

〔1〕 令和 7 年度 教務部 総括（南出准校長）

〔1〕 新カリキュラム＋観点別学習評価

本年度で新学習指導要領が全学年に適用され、本年度卒業（令和 4 年度入学生）が初めて新カリキュラムを全て終えた卒業生となる。本校では「点数法」を採用し、三観点別評価で各項目を 100 点で評価し、その平均を総合評価とした。新カ

リキュラムが一巡したこのタイミングで、良かった点、悪かった点を洗い出し、カリキュラムや評価を今後は見直していく。

[2] 年度途中の転入・転籍

8月に1名（1年次）全日制からの転籍を受け入れた。本校在籍以前の成績を見込む方法や欠課時数について教務部で検討、周知した。どの時期の受け入れにも対応できる基準の作成を今年度の内規改定に合わせて行う予定。また、年度途中の受け入れにより、担任の負担増、在校生の精神的負担が見受けられた。今後の受け入れに際しては準備を入念に行い、受け入れの可否基準の再考も検討していく。

[3] 指導要録の整理

今年度査察を受けたこともあり、今までの指導要録の整理を行った。整理を行う中で様々な問題が見つかった。そのため、記入簿を作成し、逐一指導要録の更新を行っていく体制を整えたことで、再発防止を図る。

[4] 校務処理システム

昨年度末に新校務処理システムが導入され、はじめは不具合も多数見受けられたが、本年度はマニュアルを提示し、外部窓口とも連携をとることで問題なく使用することが出来るようになった。現在では、成績処理や出欠管理等大きな問題なく使用できている。

[5] 定期考査

考査問題の紛失や誤返却の対策のため、考査問題の扱いについて見直しを行った。具体的には、テスト問題専用ロッカーの設置とその鍵の管理・使用履歴の徹底、教務部員から試験監督者へ、試験監督者から授業担当者へ共に手渡しで行うこと、デジタル採点のスキャン時に複数名で確認しながら行うなどを徹底した。以前までも紛失の事案はなかったが、より徹底することで、万が一の場合も原因をたどることが出来るよう管理体制を整えた。

[6] 時間割変更

これまでは教員都合による授業の入れ替えをほとんど行っていなかったが、本年度は教員の申し出があれば柔軟に行った。入れ替わりによって生徒や教員が混乱することも予測されたが、周知を徹底することで混乱なく入れ替えを行うことが出来た。校務支援システムの処理の手間が増えるデメリットもあるが、教職員の働き方改革といった面からも積極的かつ柔軟に対応を今後も行っていきたい。

[7] 議事録

毎回の教務部会にて議事録を作成し、データ保管を行っている。作業の失念を防ぎ、過去の検討内容の思い出しに大変有意義であるため今後も継続していく。また、議事録については他分掌の先生も閲覧が可能な状態としている。

(2) 令和7年度 生活指導部 中期報告（南出准校長）

[1] 生徒の様子

- 1年：遅刻、欠席が少なく、集中して授業を受けており、生徒同士の関係性も良い。
- 2年：遅刻、中抜けが多かったが、担任と生活指導部で粘り強く指導を行い改善が見られた。
- 3年：行事を積極的に取り組むことができていた。遅刻減少に向け生活面を含めて継続して指導を行う。
- 4年：生徒同士が互いに認め合い、就職に向けて互いに切磋琢磨できた。

[2] 指導の取り組み

授業中：授業中の中抜け、無断早退対策として立ち番指導を実施。実施以降、中抜けや無断早退生徒数が減少した。

授業規律：授業中のスマートフォン使用対策として、スマートフォン収納袋を用意、授業に集中できる環境を、来年度の導入に向けて検討している。

また、生徒集会において学校生活のルールについての説明や、ルールを守る意味を丁寧に説明して、行動改善できるように指導を行った。

生活面：欠席、遅刻をしないように1日の生活を見直すべく、担任と面談を実施。

面談内容を生活指導部と共有し指導を行っている。欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡するように継続して指導を行う。

7月に薬物乱用を実施。夏季休業中に適切な行動ができるように意識づけることができた。

登下校：4月に交通安全教室を実施し、自転車の交通ルールについての知識を深めることができた。また、生徒集会で自転車の交通ルールの説明を行った。

バイク通学生徒、教員を対象に二輪安全講習会の実技指導を二輪車安全普及安全協会の協力により、10年ぶりに実施。本校週については今後も継続して行っていきたい。

[3] 生徒会活動

本年度の生徒会は活動的に行うことが出来た。

インターンシップ：夏休みに自衛隊へインターンシップを実施。全日制と共同で参加し、職業に対して理解を深めた。このインターンシップによって進路を決定した生徒もいた。

生徒会交流会：夏休み、冬休みに府立中央高校にて開催。本校は初の参加だったが、他校の生徒会との交流を深めることができた。

文化祭：初めて他校(府立豊中高校能勢分校)と共同企画を行い、蜂蜜の蜜蝋ワックスを制作、ヒノキのコースターに塗布して販売した。これらを府立豊中高校能勢分校が筑波大学で開催されるミツバチサミットに展示、優秀賞を受賞した。

生徒会選挙では、過去最大の生徒会役員の立候補を受け付け、令和8年度は9人での生徒会活動となる。

(3) 令和7年度 進路指導部 今年度の取り組みについて (南出准校長)

[1] 応募前職場見学について

学校経営計画目標：就職希望者の応募前職場見学率 100% 維持

本年度：実施件数 ÷ 学校斡旋希望人数 = $12 \div 5 = 240$ (%)

実施人数 ÷ 学校斡旋希望人数 = $5 \div 5 = 100$ (%)

応募する企業や進学先とのミスマッチを防ぐため、全員希望職種の企業を2社以上回り、面接などに志望理由に活かすことができた。

[2] 内定・進学状況について

学校経営計画目標：就職希望者の正規雇用就職率 100% 維持

本年度：正規就職希望者 ÷ 就職希望者数 = $7 \div 7 = 100$ (%)

年度内内定者(学校斡旋のみ) ÷ 学校斡旋希望者 = $5 \div 5 = 100$ (%)

本年度も正規雇用就職率100%を維持することが出来た。また、学校斡旋ではないが、国家公務員で自衛隊の一般曹候補生に2人とも合格の快挙があった。

[3] 次年度の希望情報

卒業予定生徒数8名。うち、就職希望は6名、進学希望は2名。

(4) 令和7年度 保健指導部 今年度の取り組みについて (南出准校長)

[1] 本年度の取り組み

保健調査、定期健康診断、臨時健康診断(3年次修学旅行前検診)、避難訓練、防災講演会、安全点検(年2回)、健康相談を実施

[2] 保健室来室状況(令和7年4月～令和7年12月)

外科は37名、内科は70名の来室

[3] 学校感染症による出席停止状況

- ・4月に2年次1名がインフルエンザ罹患
- ・9月に3年次1名が新型コロナウイルス感染症罹患

[4] 学校管理下に置ける災害発生状況 受信件数（スポーツ振興センター利用）

- ・第1回体育大会（6月）にて、1年次の生徒が手指を骨折
- ・体育授業中（1月）にて、1年次の生徒が足首にひび

[5] 学校環境衛生

5月、11月：照度調査を実施。5月は黒板照度が350Lx以下の所あり、体育館は照明が消えている所があり検討が必要。11月は黒板照度が350Lx以下の所があったが、特に暗さは感じなかった。

6月：プール衛生管理を実施。残留塩素濃度が低く塩素剤追加の指導あり。

7月、12月：教室空気環境調査を実施。2回とも基準内で問題なし。

8月：保健室ダニ・ダニアレルゲン調査を実施。ダニ発生は見られなかった。

9月：飲料水水質施設調査を実施。塩素濃度基準が満たず、改善が必要とされた。

〔5〕令和7年度 後期 授業アンケートについて（南出准校長）

- ・第2回アンケート（12/24、1/8 実施）について報告。
- ・回答率は90.0%であり、前期より1.9ポイント上昇（長期欠席者除く）。
- ・アンケート質問項目は大阪府教育庁が示す項目を本校に合わせて文言を変更したものになっている。
- ・結果は前期に比べ、上昇が2項目、下降が6項目、変化なしが1項目であり、全体平均は前期に比べて0.05点下降した。0.1点以上下降した項目は、生徒理解（「先生は、授業中に分からない時や困ったときに、助けてくれ、授業の進度や難易度は適切である。」）で0.14点、授業計画（「先生は、毎時間、授業の目標や大切なポイントを説明してくれる。」）で0.12点下がった。また、令和6年度と比較すると全項目下降となった。
- ・授業力向上については、府教育センターと連携をとって職員研修（2/12 実施予定）や他校への授業見学などを行い、今後も授業力向上に努めていく。

〔6〕令和7年度 いじめアンケート 最終報告（南出准校長）

第3回アンケート（1/30 実施）について報告。

回答率は60.5%であった。質問項目のうち4つ（「①冷やかしいからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」「③軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」「⑥現金や物品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする」「⑧パソコンやスマートフォン等で、悪口を書かれたり嫌なことをされる」）に対し、「ある」との回答がそれぞれ1件ずつあった。その生徒（2名）について、今の状況について「ほとんど気にならない」に1名「未記入」に1名回答し

ている。これらの生徒は前回と違う生徒であり、現在聞き取りを行っている。状況を把握し、継続的に注視していく必要があるか検討していく。

「いじめ」「セクハラ」「体罰」に関する自由記述について、記載している生徒はいなかった。

教職員以外にも SC、SSW の相談体制を整え、関係者全体でいじめ防止に取り組んでいく。

<質疑応答>

- ・「以前は長期欠席者の生徒についても家庭訪問をしてアンケートに回答させたか。」
 - ➡「今回はしていない。」
 - ➡「今回回答率が低かったこと、長期欠席者の原因がいじめである可能性も考慮し、今回アンケートに回答できなかった生徒については、面談等で 1 度確認すべきである」

(7) 令和 7 年度 学校教育自己診断結果について（南出准校長）

1/9 に実施。保護者、生徒、教職員向けに質問を設定し、回答率はそれぞれ、生徒 72.1%、保護者 23.8%、教職員 95.5%であった。

[1] 生徒について

ほとんどの項目で昨年度と横ばいまたは上昇していた。下降したものについては、「23 学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれている」で-3.1 ポイント「29 部活動に積極的に取り組んでいる」で-6.3 ポイントであった。23 については高等学校の無償化、進学生徒がいけない事が起因していると考ええる。29 については定時制高校であることから部活の時間が遅く、加入率が低い現状にある。

[2] 保護者について

大きく上下しているものが多かった。また、回答数が 10 件であったことから、1 人の結果が 10%を占めており、大きく左右されることとなった。大きく下降したものは「23 この学校の部活動は、活発である。」で-43.3 ポイント「45 学校は、生徒が幼稚園・保育園や他の学校と交流する機会を設けている。」で-55.6 ポイントであった。部活動については生徒と同様の理由が考えられる。他の学校との交流の機会については、前期の土曜開講でベンチを作成し、幼稚園に寄付する活動を行っている。しかし、土曜開講を受講した生徒は 1 名であり、そのような活動が周知されなかった。学校のホームページの閲覧率も低く、本校の活動を発信することが難しい現状である。

[3] 教員について

大きく上下しているものもあった。学校として考えていかなければならない点として、「16 この学校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校

的課題として取り組んでいる。」や、全体として「教職員で話し合っている」という文言が入っているものについての肯定率が下がっていた。普段からコミュニケーションをとる機会を多くとれるようにしていきたい。

<質疑応答>

- ・「保護者が複数回答している可能性はないのか」
➡「保護者向けには Google フォームで回答している。秘匿性確保のため実際はどうだったかは分からない。」
- ・「教職員の中に講師は含まれるのか」
➡「常勤講師は回答しているが、非常勤講師は回答していない。」
- ・「質問項目を減らす際には学校経営計画と照らし合わせながら減らしていく必要がある。」
- ・「生徒は肯定的意見で答えることが多いため、否定的意見を解答した生徒のフォローを重点的に行っていくべきである」

(8) 令和7年度 学校経営計画評価について（南出准校長）

「3 本年度の取組内容及び自己評価」の「自己評価」を行った、達成度別に◎○△を付けている。本協議会での承認の上で3月に報告という形で進めていく。一部達成状況の分からないもの（自動車系列の生徒の3級自動車整備士試験の合格率など）については未定としている。

<協議>

- ・「保護者アンケートから自己評価している項目があるが、回答数が10しかないアンケートで評価を行うことは難しいのではないか」
- ・「外部の大会等に参加する部活動の増加について、昨年度（5部活動9回）も今年度（4部活動9回）も定時制高校ということを鑑みれば非常に高い数値となっている。これを△（未達成）にする必要はあるのか。学校の実情を踏まえると◎でも良いのではないか。」

(9) 令和8年度 学校経営計画について（南出准校長）

本協議会での承認の上で3月に報告という形で進めていく。

中期的目標については概ね変更はないが、働き方改革については大阪府より新たに加えることが決まり、全校で追加された。「3 本年度の取組内容及び自己評価」について、本校は小規模校であることから、1人の結果が全体を大きく左右することがある。また、年度によって生徒の数も変わることから、令和7年度の指標から変更し、数に左右されない指標を増やした。

- ・市内の小学校への出前授業については、今後見直しを行い新たな形での連携を

行う。

- ・自動車系列の生徒の3級自動車整備士試験の合格率では、来年度4年次生のうち、自動車系列は1名である。合格率が100%か0%のみになってしまうため、この項目は受験率のみに変更した。
- ・ホームページのブログについて、保護者や在籍生だけでなく中学校や本校に興味のある人の方が本校を知ることができるような形にしていく。また、ブログの回数を多くしすぎると書くことが目的になってしまうことから、回数を80回から40回に削減した。

<協議>

- ・「定時制高校という都合上地域連携の機会を設けることは非常に難しい。地域連携の方法についてはじっくり考えていく必要がある。」

(10) その他

なし

○ 閉会の挨拶（南出准校長）

初めての定時制で不安も多かったが、本協議会でたくさんの意見をいただいたことは学校運営上非常に役立った。本校は今後も変わっていかねばならなく、学校の統廃合の続く中で長く続く学校であるようにしていきたい。本校で学んでいく生徒たちが卒業時に「意味のある高校生活だった」と思ってもらえるような学校にしていきたい。